

町田市議会議員・若者育成の街

吉田つとむ

支持政党なし・市議会「保守の会」で活動



ブログ HP

メールは左記を読み込んで送信



インターンシップ好評

技術革新を欠いたオリンピック開催

1964年の東京オリンピックは、日本の戦後復興時期からの脱却の象徴となり、産業文化の一大イノベーションが起きました。その象徴が東海道新幹線（後に、日本全土に広がる）と首都高速道路の開通であるでしょう。前者は日本全土の高速鉄道網が展開されるきっかけとなりましたし、世界に先駆ける鉄道文化技術を披露するものでした。後者もその後、日本全土に高速道路網が広がり、日本のモータリゼーション化への転換を生み出しました。また、日常生活分野では都市部に下水道が開設され、トイレの水洗化がスタートした時代を生み出しました。日本を飛躍させる意識が旺盛でしたし、海外に劣らぬ都市を造ることとオリンピックの開催が一体のものとなっていました。

今回の東京オリンピックは、昨今の肥大化したオリンピックの反省から、「コンパクト化」を売りにしてトルコのイスタンブールに打ち勝ったのですが、原発事故が起きた福島復興をうたいたい政府の考えが加わりました。次いで、IOCより、東京の暑さを避ける目的で、マ

ラソンが札幌での開催に転換をもたらされました。開催誘致当初のコンパクトのイメージとかなりかけ離れたものとなっていきました。

その後、思いもよらぬ、新型コロナの感染拡大が起きる事態で、前代未聞のオリンピックの1年延期が決定されました。1年先の今年、新たな思いでオリンピックを迎えるところ、その後も新型コロナ感染の終息が定まらず、その開催自体が国民意見を2分している状況です。今や、オリンピックが開催されれば、新しい文化が生まれると言うイノベーションの期待は失せてしまい、オリンピックを今年の夏に何としても実行する、たとえ、無観客でも競技を開催するという決意のみが伝わるイベントになっています。



左手後方に新国立競技場の外観が見える

果たして、このまま進めて、オリンピック開催による（主催者が唱えた）レガシーというのがどのような形で残るのでしょうか。大いに疑問ですし、個人の思い出の範疇に留まるのではないかと、そうした危惧の方が先行してしまう次第です。

町田市では、自転車ロードレースが一般道路の町田街道を通過するわけであり、市はそれを大々的にPRしており、小山・相原方面がその舞台に設定されています。



◎町田市議会は定数 36 名、議員は原則「会派」単位に活動し、一般質問は個人で行います。採決は概ね「会派」単位、あるいは議員個人の判断で自由に賛否を決める場合もあります。

請願は町田市議会事務局に、要望・相談は保守の会に。個人情報規定に基づき厳守されます。

町田市議会議員 **3期連続トップ当選**

吉田つとむ

若者育成の街◆良識ある保守主義



ブログ

HP



メールは
左記を読込
して送信



インターン生募集中

オリ・パラ大会の1年延長に伴う保険

今年のオリンピック・パラリンピック開催で、事故などに備える保険契約はどのようになっているか。町田市では、自転車競技の通過ルートとなっているが、それに対して保険契約は誰が契約しているかを問うと、沿道の観戦応援を含めて、オリンピック組織委員会、東京都が担当しているとのことでした。町田市が担当するものでは事前キャンプがあるが、使用する練習施設や宿泊施設については、それぞれが施設賠償責任保険に加入しており、事故などの場合、その保険で対応とのことでした。ということで、町田市がオリンピック開催に関するリスクはほとんど持っていないことがわかりました。



吉田つとむ (保守の会)

オリンピック・パラリンピックにおいて、町田市はコミュニティライブ、パブリックビューイングを行うが、関連ある競技を放映する。それらの際には、来場者の事故に備えて保険に加入する予定となっていました。さらに、聖火リレーについては、組織委員会が主催し、東京都聖火リレー実行委員会が共催することになっており、町田市では保険を別途加入する内容は見られませんでした。オリ

ピック・パラリンピック全体を通じて、競技と大会全体の運営状況を知るには、町田市政の中からうかがうことはわずかであり、東京都の事業内容に踏み込まないと解明できないと思われました。

児童生徒の競技観戦

東京都教育委員会が全額公費負担して予定していた、児童・生徒のオリンピック・パラリンピックの観戦はその後どうなったかという問題があります。それは、公立・私立校を問わず対象にした計画で、学校単位の観戦を想定したものです。コロナ感染前に計画されたものであり、とてもそのプランが今でも残っているとは思えませんが、行政が一旦決めて予算取りをしたものを簡単に放棄するとは思えませんので、予算は翌年度に繰り越して、その時期に備えているのではないかと思います。当初の予定では、年間35時間(週1時間)も確保して「東京都オリンピック・パラリンピック教育」を見込んでいたプログラムもどのように進展されたかもこれから検証したいと考えています。



★ 吉田つとむのインターンシップは1998年に開始、町田市役所のインターンシップ受け入れや、中学生の職場体験に先行実施

★ 大学生・院生を対象に、議員活動に同行することを通じて社会勉強を支援しています。

今回の議会報告も、いわゆる政務活動費を一切使わずに、自主的に発行しているものです。